

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200524		
法人名	社会福祉法人 三桂会		
事業所名	グループホーム まんてん加古川		
所在地	加古川市西神吉町大国116-1		
自己評価作成日	令和1年7月11日	評価結果市町村受理日	令和1年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティサポートセンター神戸 (CS神戸)		
所在地	〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館 104		
訪問調査日	令和1年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型小規模特養と小規模多機能型居宅介護を併設しているため、地域方々様々な相談ごとに対して、複数の専門職で連携し、速やかな対応が可能となっている。
 ・医療については、内科医と歯科医の往診があり、日々連携の利用者様の健康管理を行っている。また、看護師も施設全体で6名が従事しており、夜間等はオンコールにて対応している。病院からの退院の際も、他職種で再面談を行い、スムーズに退院が出来るようになっている。
 ・ボランティアの受け入れ、食レク等の企画し利用者様と共に 職員も楽しめるように工夫をしている。今後は外出等を企画予定している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に小規模特養と小規模多機能型居宅介護が併設され3事業所が連携して地域のニーズに添えている。自治会員に配られる広報や回覧板で情報を得て、運動会、敬老会、餅つき大会等に参加する。秋祭りには当施設が地域の神輿の休憩所になる。施設の秋祭りには近隣住民にも案内して、ボランティアと一緒に踊り、たこ焼き、焼きそば等を頼める。入居者は広く、整理・整頓され清潔に保たれたフロアで職員の支援を受けながら、その人らしい暮らしを続けている。広い敷地には桜と蜜柑の木が植えられており、花見や蜜柑狩りを楽しむことができるようになる。畑では玉葱を収穫し、苺狩りを楽しんだ。季節の草花を切り取って玄関に飾っている。施設独自に入居者及び家族の満足度調査を行い、結果を運営推進会議に報告してサービスの改善に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホームまんでん加古川

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念及び事業所の理念を掲示設置している。また、管理者としてビジョンや方法については都度MTGや個別面談で共有できるよう努めている。	法人の理念、行動指針を玄関に掲げている。毎月の全体会議の際に参加者全員で共有を確認する。事業所独自の理念は作られていないが法人理念に沿って、入居者に「ここに入れてよかった」と言ってもらうことを目標に年間行事計画を策定し、実践している。	理念は事業所が目指すサービスのあり方を示す根本的な考え方です。法人理念を踏まえ、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、職員が日々入居者に関わる際に具体的展開を意識できるような理念を作りあげることが期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への参加を含め、年間を通して地域との関わりを持っている。地域住民や家族に対し施設行事への参加して頂き、交流が図れるように努めている。	自治会員に配られる広報や回覧板で情報を得ている。季節の運動会、敬老会、餅つき大会に参加する。当施設の秋祭りには近隣住民にも案内して、ボランティアと一緒に踊り、出店のたこ焼き、焼きそば等を類張る。トライアルウイークの中学生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、電話等で相談を受けている。介護保険の説明や、包括支援センターの紹介をする時もある。職員、職員の知人の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、自治会長や老人会会長、地域包括のセンター職員、家族等に対し取り組みを報告している。会議毎に頂く意見や提案に関し事業所で取り組み、次会議で進捗状況を報告している。	施設入居者家族、自治会長、老人会長、民生委員、市及び地域包括支援センター職員等をメンバーに2か月毎の開催である。各事業所の運営状況をスライド等で報告し、助言を得ている。施設の満足度調査結果も報告する。議事録は家族にも配布する。	運営推進会議の役割を踏まえて、事業所活動状況や入居者の状況、外部評価結果や改善の状況等について報告して参加者と話し合い、その内容を関係者が共有できる運営と議事録の作成を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業実施にあたり、不明点に関しては都度加古川市の介護保険課に確認報告を行っている。	運営推進会議に加古川市及び地域包括支援センターの担当職員がメンバーとして参加しており事業所の運営状況や課題、入居者の状況は報告できている。意見やアドバイス等も直に得られる環境下であり、諸問題に対して連携できる関係は保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で制定している指針を基に身体拘束に取り組んでいる。また、新人職員のオリエンテーションや年1回の会議にて管理者より説明を行っている。	毎年の研修で、施設の指針により「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」等を学んでいる。入居者の行動抑制となるセンサーマットを使用する場合は家族に理由を説明して同意を得るが、毎月の専門委員会でのその継続の必要性を検討して記録している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期での職員面談を行い、潜在する問題を解消するべく取り組んでいる。 身体拘束同様に新人職員のオリエンテーションのカリキュラムに盛り込んでいる。	身体拘束と併せて毎年研修を行い、高齢者虐待防止法を学び管理者、介護従業者に課せられている義務を共有する。定期会議で、入居者の人格、誇りを尊重する観点から、不適切な言葉づかい、声掛け、ケア等が行われていないかを検証して相互に注意し合う。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しながら当事業所のサービスを利用している方がおられる。施設内の掲示や会議で権利擁護について説明を行っている。	2人の入居者が成年被後見人である。管理者が成年後見制度を学び作成した文書で研修を行った。財産管理や身上監護に関わる具体的対応は成年後見人が来所した時に報告、相談をする。被後見人の介護計画の更新や洋服を買う時は成年後見人の同意を得る。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規定、入居契約書、利用契約書にて構成されており、契約の際は読み合わせを行いながら説明を行っている。契約中、契約後に関わらず、新たな疑問点に関しては丁寧に説明を行い理解を得られるように努めている。	管理者と計画作成担当者が運営規程、重要事項説明書等を丁寧に読み上げて説明している。居室の利用料金、介護サービス利用料は詳細に説明する。入居者が重度化した場合の指針を説明し、かかりつけ医、緊急時の対応について家族の意向を確認している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所に意見箱を設置し自由に投書できるようにしている。年1回満足度調査を利用者様・ご家族様を対象に実施している。また、ご面会を含む家族との関わりの際にできる要望や意見の反映に努めている。	施設玄関に意見箱を置き、常時投書を受ける。毎年12月に入居者と家族の「満足度調査」を行っており、この結果をまとめて運営推進会議に報告し、入居者家族にも送付する。家族の意見を受けて、事業所の整理、整頓、清潔維持の活動を徹底している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とし各フロア会議に参加。月1回の職員面談を行い意見や提案を聞く機会を設けている。内容に応じて必要なものは優先順位をもって取り組んでいる。	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを取り、フロア会議、全体会議で意見を聞いている。管理者による職員面談を行い意見、アイデアや個人の事情などを聞く。職員の提案を得てカラオケ大会を開き、食事レクリエーションの充実を図った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間に関しては、シフト内で必要に応じて対応している。また、できる限り個々の努力ややりがいの創出に取り組もうとしているが、給与水準に関しては法人の規定がある以上個々に変更することは難しいのが現状。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス間での職員の異動を行うなど、一点特化の職員ではなく幅広く対応ができる環境にしている。また、各委員会発信での施設内の研修や外部研修参加者からのフィードバックの場を設け、知識や技術が共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設で開催される研修や講演会へ参加させ他事業所との関わりの機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にて本人と事前に合い話を聞く機会を設けている。できる限り不安を軽減できるように家族にも協力や理解を働きかけている。申し込みの前に施設見学を促している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込前の相談の時点より、現状の問題点を浮き彫りにしながら可能なサービス提供を検討している。また、本人の事も考えながら優先順位と過剰提供にならないよう家族との関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望のみにならないよう配慮し、問題に対し優先順位を持ってサービス提供を行っている。また。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住まいであることを念頭に温かみや安心を提供できるよう努めている。介護現場という狭義ではなく社会性の構築の場としても捉え杓子定規な対応にならないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人が関わる機会を保てるよう努めている。ゆっくり落ちついた環境で面会ができるよう配慮をしている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所に出かけたり、面会時間等に過剰な制限は行わず友人等が訪れやすいよう配慮している。	家族や友人等の面会の頻度は多い。時間等の制限は設けずに、主に居室で話してもらっている。家族が入居者を囲み5人で新年の食事をしたいとの申し出があり、相談室を提供した。馴染みの散髪屋や喫茶店に行きたい等の希望には、できる範囲の対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話や関わり合いを持てるよう、席の配置や椅子の距離に配慮している。レクや催し物を企画し、利用者同士が関われる機会の創出を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も連絡をし現状について必要があれば相談に応じている。また、他サービスの紹介も含めた支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	細かい部分までの把握はまだ出来ていないがその場その場で希望や意向を聞き対応している。	入居者の暮らし方の希望や意向は、入居時に家族から聞いている。毎日の喫茶時のメニューや、イベントへの参加の有無などは、簡単に選べる質問で本人の意向を確認している。入居者が答えられない事項は、職員間で話し合って判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族様へ聞き取りを行っている。入居後も面会時などにご家族様より聞き取りを行うなど、入居前の暮らしぶりを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は一人一人ある程度把握出来ておりご自分のペースで過ごせるよう支援している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には本人やご家族様の希望等を聞き作成している。また更新時にも本人や家族の希望も聞き取りし介護計画を作成している。	家族には来所時に、さりげなく思いや意見を聞いている。介護計画の見直しは、原則6か月毎に行う。介護認定更新時、退院などで状況が変わったときにも行い、ユニット会議にかけている。モニタリングは計画作成担当者と管理者が行っている。	モニタリングを行ったときには、その結果を入居者家族と職員に開示して共有化するとともに介護計画の同意を得る際の基礎資料として提供されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい様子などの記録は全員が行えてはいるが、必要なことは記録するよう指導している。話し合いの場では記録以外でも職員からの意見を聞き取り見直し時に活かしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべてのニーズには対応できてはいないが、いま出来る範囲での対応は行うよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア方にきていただき行事を企画したり、秋に地元神輿を入居者様にみていただいたりと楽しんでいただけるよう支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで関係を大切に、受診につながる通院等に関して、看護師にも入っており意向を確認しながら、受診へつなげている	往診がある協力医療機関の医師をかかりつけ医に選択する入居者が多い。施設内以外での病院受診は、原則として家族に対応をお願いしている。歯科医師による往診もある。施設の看護師職員との連携が取れており、医師等との情報共有はスムーズである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝申し送りに看護師と共に行い情報共有を行っている。その他場合でも何かあればすぐに看護師へ相談し、嘱託医と連携をとりながら適切な治療や受診が受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員と病院へお見舞いに行くなどし、都度状態の把握に努めている。また、退院の際には病院にて他職種で面談を行いスムーズに退院ができるようにしている。	入院時には必要に応じて介護サマリーを医師に提供している。病状が落ち着いたら、他の入居者からの手紙や写真を持って見舞いに行っている。退院前には、関係者によるカンファレンスに家族と共に参加して退院後の生活に備えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りに対する指針を説明し、緊急時の対応についても、都度意向の確認をしている。また、随時変更が出来る旨も説明をしている。	契約時に「重度化した場合の指針」により、事業所として出来る事と出来ない事を説明している。状態の変化時には再確認し、随時変更できることも説明する。状況によって特養の入所を選択肢とすることもあるが、家族の意向に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回急変時対応研修を行っている。人形を使用して心臓マッサージ実践 毎回行い実践力を身に付けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火管理者が昼夜避難誘導の研修を実地し、全職員が方法を身につける機会を設けている。また、夜間待機者が施設で2名いるので、連携が出来る体制を確保している。	消防訓練(消火、避難)は、年2回、3事業所合同で行っている。4年前に周辺道路が冠水したことがあり土嚢の用意はしている。職員の連絡網を利用して職員への招集は可能だが、連絡がスムーズに回るかを確認したいと考えている。	昨年度の目標達成計画を完遂するとともに、①消防訓練への地域住民の参加を呼び掛け、②家族との入居者の避難先等の情報共有化、を行ってはいかがでしょうか。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声かけや対応ができるよう心掛けています。また不適切な対応があれば職員同士で注意し合える関係性づくりに努めている。	呼称に「ちゃん」づけはしない。苗字、名前を「さん」づけで呼んでいる。声掛けについては、ストレートな言葉かけの職員もいるので、その都度リーダーから注意をし、ミーティングで入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を共有化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	計画作成担当や担当が中心となり日々の会話の中で思いや希望を聞き取り職員と共有するよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間はある程度決められた時間の中では行っているが、その他はご自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えは本人と一緒に選んだりその他でも好きな服を選んできていただいている。レクリエーションで化粧をする機会をつくるなど楽しみもつづけている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っているが、食器洗いやテーブル拭きなどの片付けは入居者様にも手伝ってもらうよう声かけを行っている。	キッチンでご飯を炊き、温めを行い、匂いを楽しんでもらっている。食事レクリエーションでは食べたいメニューを相談し、職員と一緒に調理をしている。あと片付けはお盆を拭いたりしている。月に1度、業者がパンの販売にやってくる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量を記録し1日トータルの食事を把握している。水分量は必要な方のみ測定しているが、食事時以外でも水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台へ誘導し口腔ケアを行っている。出来る限りご自分でしていただいているが、仕上げ磨きを職員で行い口腔内を清潔に保てるよう支援している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には定時(食事前)に排泄介助は行っているが、排泄量や排泄パターンを個々に把握し、個別に対応している。	排泄パターンを把握して定時以外にもトイレ誘導をし、おむつが外れた方もいる。家族からおむつの希望があるときは、何度も家族と話し合いをする姿勢である。おむつやパッドの使用に関して、ミーティングで最適な選択ができるよう話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携を図り嘱託医へも相談し個々に応じた下剤の調整等を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は固定しているが、入りたいタイミングでの誘導や体調不良や拒否があった場合は次の日や時間帯を調整し入浴できるよう支援している。	週2回の入浴を想定して、曜日と時間帯とを予め決めている。しかし当日の気分や体調に配慮し、希望に沿うようにしている。拒否の方には「ちょっと手伝って」等と声をかけ浴室に誘導できると入ってもらっている。成功例、失敗例は職員間で情報を共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも体調が優れない時は居室で休んでもらうよう声をかけたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に応じた服薬支援を行っている。また新しく処方された時は症状や変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなことや趣味・得意なことを日常生活の中で出来るよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての戸外への出かけられては行けないが、時間を見つけ施設内の散歩など行っている。施設外への外出はご家族様の協力を得て支援している。	施設周辺は広い水田が続き、徒歩や車椅子による外出は難しいため家族の協力を得ている。施設には、桜と蜜柑の木が植えられ、小さな畑もある。入居者は庭先のテーブルでお茶を楽しむ。畑で玉葱や苺を収穫し、草花を切り取って、施設玄関の花瓶に飾っている。	駐車場スペースが広く、土いじりができるスペースもあります。更なる有効利用を考えて、日常的に気軽に外の空気に触れる機会を持って、これを家族にアピールしてはいかがでしょうか。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心される方については、家族の了承のもと少額のみ持っておられるが実際に使用をされた事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば携帯電話の持ち込みを許可し、必要なときに連絡がとれるようにしている。携帯電話を持っておられない方は、事前にご家族様に了承の上、ご本人様の希望があれば電話を使用して頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	真ん中にキッチンがあることで料理中の音やにおいを感じてもらっている。また不快に感じないようにトイレは共有で使用するため使用後はきれいに保つよう心掛けている。	キッチン、リビングが一体化しており広々とした空間を作っており、一目で見渡せる。窓も大きく、明るい雰囲気である。ソファにはタッチアップを置き、配慮している。棚や壁には入居者の作品が飾られている。掃除には気を配り不快感のないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	マッサージチェアを設置し、フロア内にソファを数か所に置き、好きなスペースで過ごしてもらえるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具はご自宅で使用していた物を持ち込んで頂き、できる限りご自宅に近い環境を作れるようにしている。置く場所も本人や家族と相談して設置している。	ベッド、クローゼット、エアコンは備え付けである。タンス、机、椅子等の家具を持ち込んでいる。壁には家族が飾り付けをしており、その人らしさをだしている。室内は整理整頓され清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	集団レク以外でも個別でのレクや移動中にも運動ができるよう工夫をしている。		